



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.15

【発行日】令和4年1月6日 【発行】四日市看護医療大学 庶務課

〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200 TEL.059-340-0700 FAX.059-361-1401 <https://www.y-nm.ac.jp/>

リアルで会えなかったことが大学に残した爪痕



学長 柴田 英治

今年度から学長に就任しましたが、入学式の式辞以外にはこれまで新入生以外の方々に対面でご挨拶も自己紹介もしたことがないまま、年度の半分以上が過ぎてしまいました。原因はご承知のように、新型コロナウイルス感染の拡大により、多くの人が同じ場所に集まることが難しくなったためです。私が赴任した4月には感染の第4波が襲いかけている頃でした。その後第5波というこれまでに最大の波を経験することになりましたが、まだ警戒を緩めることはできない状態が続いています。

大学に関わる大多数の人々にとっては、初対面の者が挨拶もなしに学長になって大学の管理者の仕事の始めたことになり、私はこれまで常に居心地の悪さとする種の気まずい気持ちを引きずってきたというのが正直なところではあります。

学生のみなさんは本来、学びの場は授業だけではなく、キャンパスで友人、教員などとコミュニケーションをとることそれ自身が大切な学びになります。様々な人たちがお互いに相手の気持ちを想像しながら、自らの意思を伝えるという双方向のやり取りをすること、さらにこれらのことが円滑にできるためには挨拶を交わすことが大切であることを人類は体得し、古今東西の人々が多様な方法で挨拶をするようになりました。大学で行う入学式も卒業式もその目的は挨拶をすることにあり、だからこそ現2年生は本来昨年4月に行うはずだった入学式を1年経った今年4月に少し苦労しながらも実現したのです。

ところで、我が国での本格的な感染拡大は昨年2月頃から始まりましたので、昨年はほぼ年間を通じてその影響が各方面に出たこととなります。昨年の若い世代の状況を示す最も重要な点は自殺の増加です。特に20代の自殺死亡率の増加が目立っています。その背景に感染拡大が大きく影響していることが多くの専門家から指摘されています。大学でいえば授業がオンラインになり、友人と会う機会も極端に減ったことが関連していることはほぼ間違いありません。感染症はもちろん恐ろしいのですが、社会が感染対策をとった結果生じる間接的な影響も感染症そのものに劣らず恐るべきものです。本学もその例外ではなく、学生のみなさんは意識するかしないかに関係なく、心への負荷がかかっていると考えた方がいいのです。四日市看護医療大学は医療系の大学です。病める人々を救う立場になる者は自らの心の健康にも敏感でなければなりません。少しでも心の不調を感じたら信頼できる周囲の友人、教員、誰でも構わないので、相談してください。困っているというサインを出すだけでもいいのです。感染の克服とともに学生が主役の大学を元気にしていきたいと考えています。

令和3年度 入学式

4月2日(金)に令和3年度の入学式を挙行いたしました。

当日は、学科・研究科別での式典実施、ソーシャルディスタンスの確保やマスク着用の徹底などポストコロナ社会でのニューノーマルを実践しながらの入学式となりましたが、喜岡理事長からの祝辞、柴田学

長からの式辞を聞く新入生のまなざしは希望に満ちており、新生活への期待に胸を膨らませている様子が見受けられました。

式典の最後には臨床検査学科・看護学科・看護学研究科それ

ぞれの代表者により宣誓が行われ、医療従事者を志す事への決意が述べられました。

また、4月5日(月)に昨年、コロナ禍により中止を余儀なくされた看護学科、臨床検査学科2年生を対象とした入学式を挙行いたしました。

新入生と同様に学長、柿原・高崎両学科長からの式辞、入学生宣誓、が行われた後、歓迎の意を示す花束贈呈が行われました。

最後になりますが、新入生、2年生の皆様のご入学を教職員一同心より歓迎いたします。

教員からのメッセージ

臨床検査学科
講師 大島 茂



学生たちは、コロナ流行とともに入学し、1年半をコロナとともに過ごしてきました。遠隔授業など、多くの制限がある中での初めての大学生活に、苦勞をしてきたと思います。

現在は、徐々に大学の登学回数も増え、日常が戻りつつあります。臨床検査学科1回生は週に4日、学内実習で忙しい毎日を送っています。去年の今頃はピペットの扱い方もごちなく、思うように操作できなかった学生もいましたが、今では皆、毎日の講義や実習レポートに追われながら、多様な検査技術を習得して様々な知識を身につけています。来年からは臨地実習という実際の現場で明確な目標をしっかりと持ち、現場の臨床検査技師の先生たちからいろいろなことを吸収して来てくれることを期待しています。

学生たちは自分の現状に満足することなく、先の将来像を見据え一日一日を大切に過ごして欲しいです。私はこれからも精一杯サポートしながら見守っていきたいと思っています。

令和3年度 教育後援会役員会・総会

平素は本学の教育後援会活動に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和3年度教育後援会は新型コロナウイルス感染症の影響により、大学での総会開催は控え、役員会のみ6月5日(土)に集合形式で実施いたしました。

役員会では、令和2年度事業報告および決算報告、令和3年度役員案、事業計画および予算案が提案され、総会においては書面の決議を行うことで承認されました。その後、大学側から、国家試験、就職状況、クラブ等、新型コロナウイルス感染症における本学の対応状況についての報告をさせて頂き、ご理解頂きました。

大学側の顧問及び事務局としましても、コロナ禍での役員会ということもあって限られた時間ではありましたが、直接ご挨拶ができたこと、貴重なご意見を伺えたこと、誠に有難く存じます。また、総会においてもコロナ禍の影響で書面での決議を

余儀なくされましたが、過半数以上の方々にご返信いただき、関心を寄せていただけることに感謝致しますとともに、この場をお借りして御礼を申し上げます。

引き続き教育後援会の運営に何卒、ご理解の程よろしく願います。



令和3年度 保護者懇談会



10月2日(土)教育後援会主催の保護者懇談会を開催いたしました。

保護者の皆様から93名の方に参加いただきました。この場を借りて教職員一同、深く御礼申し上げます。

当日は感染状況を鑑み、全体会は中止とし、参加者様には事前に時間を指定してお越しいただく個別面談のみの実施となりました。受付にて学長メッセージを同封した資料をお渡ししたのち、面談会場にご案内させていただき、アドバイザー担当教員等との個別面談を実施致しました。1組15分程度の面談ではありましたが、多くの皆様から学生生活の状況等を知っていただく良い機会になったとの感想をいただきました。

今年度は、昨年度から続いているコロナ禍の中、多様な授業形態の中での学習状況、実習ができないための不安等、多くのご意見をアンケートで頂戴致しました。お預かりしたご意見は集約し、すみやかに学生支援等ができるよう、教職員一同より一層精進してまいりたいと思っています。引き続きご支援等よろしく願い申し上げます。

学友会 新入生歓迎会

学友会は1・2年生が中心に活動し、新入生歓迎会や大学祭などの行事を企画・運営しています。新型コロナウイルス感染拡大のため、活動が制限されている状況ではありますが、学生の皆さんにとってより良い大学生活になるように活動しています。

4月6日(火)に行われた新入生会では、両学科長の挨拶からはじまり、サークル紹介やビンゴ大会など、終始明るい雰囲気です。短い時間ではありましたが、これから一緒に過ごす仲間と大学生活について知る、充実した時間となっていたら嬉しく思います。



オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは、6月13日(日)、7月17日(土)、8月9日(月・祝)に行われました。今年も学科ごとに定員を設け、参加者は受験を控える高校3年生・既卒者に限定し、感染症対策が徹底された中での開催となりました。東海地方以外の遠方からの参加者も見られました。

当日は、両学科の会場ともに学長の挨拶から始まり、四日市市健康福祉部次長様から本学の支援制度などのお話をいただき、入試広報室より大学の概要や入試説明を行いました。その後、模擬講義や実習体験、個別相談へ自由に参加していただきました。個別相談や先輩と話そうのコーナーでは、入試、奨学金についてだけでなく、実際の学生生活などを熱心に質問する参加者で賑わっていました。

参加された方の声をお聞きすると、四日市看護医療大学の魅力を感じていただき、今後の進路や目標を決めるための充実した機会の提供になったと思われまます。



教職員研修の活動について

ハラスメント対策委員会

ハラスメント対策委員会委員長 二村 良子

本学では、ハラスメント防止・対策に努めるために、パンフレットや本学ホームページへの掲載による啓発活動や研修等を行っています。

2020年6月から「パワハラ防止関連法」の施行によりハラスメントの対応強化が図られています。そこで、本学では、弁護士による教職員研修を3月に行い、ハラスメント防止

の理解を深めます。また、ハラスメント相談窓口担当者は、ハラスメント事例に基づいたロールプレイを取り入れた研修を行います。

ハラスメント防止には、日ごろの自身の言動を見直し、ハラスメントについて考えることが大切です。ハラスメント対策委員会では、学生、教職員に対して、ハラスメントの防止・対策のために、工夫した内容での研修会を開催し、ハラスメントのない学習環境を学生・大学院生に提供していきます。

教職員研修

事務局長 室町 律雄

本学では、大学職員としての能力の向上とともに、社会人としての資質向上を図るため、学内・学外の研修等を通じてその取り組みを進めています。

研修は、大学を取り巻く厳しい状況に対応していくため、知識の積み上げだけでなく、状況を分析する能力や企画能力など、大学人として求められる能力の養成を目指すとともに、改革意識を促すものと位置づけています。

2021年度、事務職員においては、複数の新規採用者に対し大学で学ぶべき基本法令や窓口対応、大学の財政などの基本的な研修を実施したほか、論理的思考能力を養うための研修等に取り組み、教員においては、3月に外部講師を招いての研修を計画中です。また、12月には教職員を対象とし三重県下の私立大学合同での研修を予定しています。

コロナ禍でオンラインによる研修が主流となる中、参加型研修も活用しながら、教職員の能力と資質の維持・向上に努めています。

公開講座 「身体からの SOS 信号をキャッチしよう ～臨床検査値をどう読む?～」

講師 高崎 昭彦 教授

令和3年7月10日に三重北勢地場産業振興センターにて本学臨床検査学科長の高崎昭彦教授が「身体からの SOS 信号をキャッチしよう～臨床検査値をどう読む?～」をテーマに講演いたしました。

当日は地域にお住まいの35名の方々にご来場いただき、大学や臨床検査技師の紹介に始まり、医療機関で行われる「検査」にはどのような項目があり、どのように読み取るのかなどをわかりやすく解説したほか、なぜ肥満がいけないのか、お風呂と血圧の関係など身近な事柄を取り上げました。

講演後には、来場者にパルスオキシメータを使った「動脈血酸素飽和度」のチェックを行いました。参加者からは、「以前から気になっていた健康診断の結果について深く知ることができた。今後日常生活を送るうえで注意するポイントがわかったので参考にしたい」との感想がありました。



みえアカデミックセミナー 「生活習慣病の予防」

講師 工藤 安史 准教授



令和3年7月31日に三重県総合文化センターにて「みえアカデミックセミナー」に参加いたしました。「みえアカデミックセミナー」は県内の大学・短大・高専・放送大学を含めた高等教育機関との連携で生まれた公開セミナーです。

本年は工藤安史准教授が担当となり、「生活習慣病の予防」をテーマに講義をいたしました。講演では様々なデータを基に客観的な視点から健康について語られました。中でも「健康日本21」の内容を細かく紐解きながら、わが国での健康問題の改善に大きな壁となっている生活習慣病について語られる場面では参加者が熱心にメモを取る様子が見られ、大きな関心があることが見受けられました。最後に工藤准教授から「生活習慣病は意識的に生活を変えることで改善できるもの、かかりつけ医に相談しながら無理せず積極的に取り組んでもらいたい」とのまとめがあり、講義は終了となりました。

高齢者向け生涯学習プログラム

**「幸せな生き方ヒントと
ロコモ予防で心もハッピーに」**

担当：在宅看護学領域教員（多次講師、春名講師、北井助教）

内容：プチ・生き方ヒント講話/コグニサイズとロコモ予防

会場：四日市看護医療大学



令和3年12月7日に高齢者向け生涯学習プログラムを開催いたしました。

看護学科在宅看護学領域教員が担当し「幸せな生き方ヒントとロコモ予防で心も体もハッピーに」をテーマに講座、体操の二部構成で実施をいたしました。

講座では、幸福の4大因子に主眼をおき、日常生活の中でストレスを溜めずに幸福度を高めるヒントについて春名講師より語られました。

後半の体操では、北井助教によるコグニサイズの実演が行われ、ご自宅でも取り組めるよう参加者の皆様に体験していただきました。

参加者からは、「講座と体操の組み合わせでとても楽しく参加できた。」「認知症予防、健康維持のために今後も続けようと思う」との意見を頂戴し、充実した内容であったことがうかがえました。



教授
ダニエル・カーク

四日市看護医療大学の海外研修は、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校で2年生30名を対象とした2週間の学修体験です。

学生は、看護についての理解、英語に対する自信と能力、そしてお互いの関係を深めます。

参加者は、看護に関する講義に出席し、医療施設を訪問し、英語のクラスに出席します。

学生はお互いを知るようになります。すべての学生は2人部屋に住んでおり、すべての施設を他の学生と共有しています。

今年も海外研修が新型コロナウイルスのためキャンセルされました。状況が改善され、生徒たちがこの豊かでやりがいのある経験を再び体験できるようになることを願っています。

臨床検査
学科PCR 検査も充実。
「ポストコロナ」に向けた新たな試み

臨床検査学科長 高崎 昭彦



令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策に対応した講義スタイルでスタートを切りました。昨年は未曾有の事態に大学側も対応に追われましたが、今年度はその教訓の基に、また学生の協力もあり、対面とリモートを組み合わせた「ハイブリッド教育」を実施しています。何事もプラスに考える臨床検査学科は、感染拡大が終息を迎えても臨機応変に「リモート講義」を取り入れていく予定です。繰り返し視聴でき理解が深まり、質問は対面講義時に対応するといった方法で効果が上がる科目もあります。この事態を通じ、学生も「デジタル化」「リモートワーク」に関わる通信機器等の扱いに習熟し、これからのポストコロナ時代に対応できるよう準備が出来てきました。次年度からは「電子ノート」「電子教科書」導入も検討しています。また感染対策も引き続きレベルを上げて実施していきます。

今年度から全学園対象の希望者に「PCR 検査」「抗原検査」を実施しています。臨床検査学科ならではの取り組みであり、学生教育にも生かしております。引き続き感染対策を万全とし、学科をあげ「ポストコロナ」に向けた取り組みを展開していこうと考えております。ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

臨床実習
体験記

臨床検査学科 伊藤 真菜

大学生活がスタートし、オンライン授業と対面授業の両立に不安を感じていましたが、先生方の手厚いサポートや私たち学生一人ひとりをよく見て下さるおかげで、充実した学校生活を送っています。授業について質問すると、先生方の丁寧な説明により疑問が解消し、もっと知りたいことが増え、さらに授業が楽しくなりました。また、この大学の特色である基礎セミナーの授業では、興味を持ったことに対して学びを深め、グループでの意見交換では新しい価値観にふれ、クラスの人との交流を深めることができました。

後期から本格的な実習の授業が始まり、慣れない器具やレポート作成に苦戦していますが、グループで協力し今後の実習も取り組んでいきたいです。

大学に進学し、新しい環境や人間関係に出会って、様々な刺激をもらいました。これからもこの大学で仲間と臨床検査技師の資格取得に向けて頑張りたいと思います。

看護学科

オンラインによる精神看護学実習

看護学科 実習委員長 大西 信行

看護実習
体験記

看護学科 山田 ゆらら

私達は、保健師実習の一環で「新型コロナウイルス対策」に関する健康教育を行いました。対象は、9月から看護学実習中の本大学の3年生です。

新型コロナウイルスを含む感染症対策は適切に行わないと意味を成しません。そして、3年生が実習でお世話になる方々は、病気と闘ってみる患者さんです。そのため、学生が新型コロナウイルスに罹患しない身体づくりを行うことが大切であると考え、ワクチンの効果や適切な感染予防対策を考えるきっかけにしようと提案しました。今回の健康教育を通して、学生ひとりひとりが、自分や相手のことを思い、明確な根拠を持って言動すること、常に新型コロナウイルスに関心を持って、新しい情報を取り入れてほしいと思います。

精神看護学実習は、新型コロナウイルス感染症の影響により、臨地での実習ができない状況となっています。そこで、実習病院、関連施設のご協力のもと、病院と大学を結ぶオンラインによる実習となりました。臨地実習は、看護の理論と実践を結びつけ理解する能力を養う場として重要であります。学生の多くが精神障がい者に関わる機会が少なく、看護が実践できないことで、精神看護のイメージがつかないことが予想されました。そのため、実習指導者から事例展開やカンファレンスで、症状の説明や対応方法などの助言をいただくことで、精神看護の実践をイメージしながら実習に取り組んでいます。また、患者様、デイケア利用者様とオンラインで実際にコミュニケーションを図ることで、患者様の体験談から多くのことを学ぶことができます。

限られた環境ではありますが、学生は積極的に学ぶことができ、実習病院、関連施設のご理解とご協力のもと、オンラインでの実習ができることに深く感謝しています。



学友会主催 **とこわか**

令和3年9月25日～10月25日の「とこわか国体・とこわか大会」開催に向けて、本学ではボランティアの一環として、学生や教職員で横断幕を作製しました。合計で45枚の横断幕が出来上がり、どれも各県の名産や特徴が詰まった力作となりました。

残念ながら大会は中止となってしまいましたが、この横断幕は出場予定だった選手の皆さんに寄贈されるそうです。



高大連携 **ら**いて

令和3年度の暁高校との高大連携事業は、3年生24名(看護医療コース選択者+希望者)が7月5日(月)に来校して、大学講座体験を実施しました。看護学科では新生児の沐浴や妊婦の腹部モデルを用いた演習等を、臨床検査学科では超音波検査や血液検査等の演習、PCR検査機器の見学を体験していただきました。

参加された生徒の皆さんは体験中、大学の教員や在学生に指導を受け、緊張しながらも、楽しそうに学ばれていました。どちらの学科の体験も大学ならではの設備を実感していただけたのではないのでしょうか。



この高大連携事業では、高校生の方に大学での学びを経験することを通じて、看護医療系の学びを深め、進路選択の幅を広げる機会となることを目的としています。暁高校から本学あるいは医療系養成校進学への意識向上につながるよう、今後も高大連携事業を推進していきたいと考えます。

クラブ紹介

生理学研究部 Whimsy

生理学研究部(Whimsy)は、名前の通り、生理学検査の技術と知識の習得を目的とした活動を行っています。さらに、その知識を磨き、各チームで研究を行い、学会発表をしていこうと思っています。自分の意志とは関係なく機能している生体反応がどのようにして働いているのかについて、まだ解明されていないことが多く存在します。それらを解明するべく、教員と学生が協力して研究を進めています。

昨年の発足後、新型コロナウイルス感染拡大の影響から活動と呼べるものができていませんが、30名近い学生が所属しています。今後は、研究室に閉じこもってばかりではなく学外に出た活動も視野に入れています。



学生支援体制

コロナ禍での学生支援体制

教育推進・学生支援センター長 二村 良子

新型コロナウイルス感染の拡大下での授業は、三密を避け、分散登学とし、対面授業と遠隔授業を組み合わせて実施してまいりました。一方、登学できない状況が続いたことによる学習意欲の低下に対する不安や、人間関係について悩む学生からの声には、アドバイザーとの面談やカウンセリングの紹介を行うなどの対応を講じ、学生の精神的負担の軽減を図ってまいりました。

また、遠隔授業時には小人数で行うグループワークを取り入れ、学生がお互いに理解する機会を増やすなどの工夫も試みました。

臨地実習が行われる看護学科2年生から4年生までのワクチン接種希望者には、医療従事者優先枠として早い段階から接種

を開始、6月までに接種を完了することができました。接種による副反応があり、登学が難しい場合には公認欠席扱いとし、教室での対面授業を、Zoomでリアル配信するという「ハイブリッド型」を採り入れ、学習機会の確保に努めています。

特にコロナ禍における実習はさまざまな制限があります。本学では臨床検査学科の教員によるPCR検査実施体制が構築されたことにより、施設側および大学側も安心・安全な実習を行うことが可能になりました。最大の教育効果を発揮でき、大きな成果であったと思います。引き続き、教職員が連携し、建学の精神「人間たれ」の教育を実現し、学生へ提供したいと考えています。

四日市看護医療大学
2020年度(2021年3月)卒業生

就職・進路状況

就職率・進学率100% 4割が公務員に!

2020年度卒業生はそれぞれの看護の道に羽ばたいていきました。新型コロナウイルスという大きな出来事が起こり、例年とは違った遠隔等による就職試験が行われ、学生は随分戸惑った1年だったと思います。そんな中4月から6月までに65%、10月には95%以上が内定を得る結果となりました。まだまだコロナ禍は続いていますが、この時期、ゼミ講義・統合実習・国家試験対策等、多忙を極める学生が、この流れに乗り遅れないよう、また、主体的な就職活動ができるよう、本学はアドバイザー教員を中心に全学的な体制で学生をサポートしています。

国家試験合格率

- 看護師：98.2% (受験者112名/合格者110名)
- 保健師：100% (受験者51名/合格者51名)
- 助産師：100% (受験者10名/合格者10名)



- ◆ 全体の4割が地方公務員となり、独立法人化された準公務員なども含めると8割が何らかの公的医療機関に就職を果たしました。このことから依然として公務員や公的な職場への人気の根強さが窺えます。
- ◆ 地域別では、地元三重県への就職者数が67%となり、今年度も看護職の充足率が全国平均を大きく下回っている三重県や四日市市からの期待に応えることができました。
- ◆ 実習先病院には、42%が就職しており、本学の教育と就職が密接に関わっていることを裏付ける結果となりました。

日本は、2025年には団塊の世代が全て75歳以上の高齢者となり、2040年には団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となるなど、急速に高齢化が進んでいきます。2020年度の診療報酬改定※でもキーワードとなったのは、やはり「地域包括ケアシステムの構築」と「医療機能の分化・強化」。このことは看護師の採用や働き方にも密接に関わってきます。本学としても、今後の動向に注視しながら、適切な学生支援を展開していく所存です。

※診療報酬改定：医療機関の診療に対して保険から支払われる報酬の改定で2年毎に見直される

2020年度 就職・進路状況 (2021年3月卒業生)

卒業生		113
就職	就職希望者	111
	就職者	111
	就職率	100%

※就職希望者数は、卒業生のうち国家試験不合格者、就職意志のない者を除く。

都道府県	就職先	人数
三重県	市立四日市病院	32
	四日市羽津医療センター	4
	三重県立総合医療センター	6
	JA 三重厚生連菟野厚生病院	3
	伊勢赤十字病院	2
	桑名市総合医療センター	5
	三重大学医学部附属病院	6
	市立伊勢総合病院	1
	松阪市民病院	1
	済生会松阪総合病院	3
	鈴鹿病院	1
	三重県立志摩病院	1

都道府県	就職先	人数
三重県	国立病院機構三重中央医療センター	1
	国立病院機構三重病院	1
	藤田医科大学七栗記念病院	2
	四日市市(保健師)	3
	いなべ市(保健師)	1
	川越町(保健師)	1
三重県 集計		74
愛知県	あいち小児保健医療総合センター	2
	愛知県がんセンター	1
	稲沢市民病院	1
	総合犬山中央病院	1
	名古屋医療センター	1
	名古屋市立東部医療センター	2
	名古屋市立西部医療センター	3
	名古屋市立大学病院	2
	名古屋市立緑市民病院	1
	名古屋大学医学部附属病院	2
	名古屋第一赤十字病院	1
	名古屋第二赤十字病院	2

都道府県	就職先	人数
愛知県	名古屋掖済会病院	1
	名城病院	1
	JA 愛知厚生連海南病院	2
	大同病院	2
	一宮西病院	3
	中部労災病院	1
愛知県 集計		29
岐阜県	木沢記念病院	1
	中津川市民病院	1
	岐阜県 集計	
静岡県	遠州病院	1
	藤枝市立総合病院	1
	聖隷三方原病院	1
	静岡県 集計	
東京都	虎の門病院	2
	東京都 集計	
大阪府	大阪赤十字病院	1
	大阪府 集計	
合計		111



教員学外活動

准教授 日比 千恵

産婦人科で勤務していた時、望まない妊娠や、身近な人から性暴力を受け癒えることのない傷を抱える多くの女性に出会いました。その経験から「性についてより多くの人に知ってほしい」という思いで、5年前から県内の中学校に向いて性教育を行っています。毎年、中学校の先生がたと相談しながら、学年ごとにテーマを決めています。今年度は、1年生には〈友だちとのコミュニケーション〉、2年生には〈いのちのはじまり〉、3年生は〈好きな人との付き合い方〉をテーマとして行いました。性教育はただ単に知識をつけるために行っているのではなく、〈その人がその人らしく生きる権利がある〉ということを大切に講義を組み立てています。講義を通して、生徒さんたちが自分の〈性〉を考えるきっかけになればと思っています。

宮崎徳子奨学金・河野啓子賞・ 長江拓子奨学金授与式

7月21日(水) 宮崎徳子奨学金および長江拓子奨学金授与式を行いました。

宮崎徳子先生は開学以来、学科長・学長補佐など数多くの役職を歴任されるなど、本学の発展にご尽力いただいております。長江拓子先生は本学で教鞭をとられた後、顧問としてお力添えをいただきました。両先生から頂戴した寄付金を基に創設されたこれらの奨学金は、本学の学生がより一層学修意欲を高め、看護専門職業人となる人材の育成に資することを目的としています。

学業成績、本学および社会への貢献などから審査し、看護学科4年生4名、3年生3名、2年生1名の計8名の学生が奨学生として



選出されました。授与式では、柴田学長から賞状と奨学金が授与され、宮崎先生から激励のお言葉を頂戴しました。奨学生の方々さらなる活躍を期待します。

卒業生だからこそみえること ～教員として

澤木 美貴 助手

約10年振りの大学は、友達との思い出や実習、国家試験の勉強の日々を思い出し、とても懐かしく感じました。就職してからも思い出に元気をもらい、本学での学びは看護師や保健師として働く上での助けとなり、今でも私の支えになっています。今後は、教職員という新たな立場から学生や先生方と関わり、授業や実習に楽しく取り組めるように一緒に考え、悩み、自分も学び続けていきたいです。

山口 路 助手

10年前に本学を卒業し、教員として戻ってくるとは思ってもいなかったです。ご縁があり、この場所に立った時、楽しかった学生時代の記憶が蘇りました。私は助産学を選考しており、毎日必死でしたが、今思い出すのは実習室で仲間と笑い合っていた思い出です。今は教員の立場で、学生を一生懸命だった自分達と重ねて見えています。私達の頃にはなかった設備が増え、より実践に近い形で学ぶことができるためイメージがつかみやすいと思います。学生時代に臨床に近い形で学ぶことは強みであり、とても恵まれている環境だと思うので、夢を叶えるために教員としてサポートしていきたいと思っています。

本年度 学位記授与式

令和4年3月10日(木)
都ホテル四日市において挙行する予定です。

学食をご担当いただいています水谷店長に今回は **ズバリ** 聞いてみました!

学食紹介第2弾

Q1

最近さらに美味しく内容も充実している！と大評判の学食ですが、特に力を入れているおすすめメニューはなんですか？
そのメニューに特に工夫されていることはなんですか？

食文化のちがう学生さんが沢山いる中で、少しでも皆さんに喜んで頂きたいと考えています。定番メニューはもとより、飽きのこないメニューの工夫などに力を入れています。

ベジタリアンの方などにも安心して食べていただけるためのスパイスを利かせた野菜カレーはイチオシのメニューです。多岐にわたって美味しいものを食べていただけたらと、日々試行錯誤しています。



Q2

学生食堂をどのように展開させていかれるか今後の展望、計画などあればお聞かせください。

学生生活を送る上で、学生食堂は最も大切な場所の一つと考えています。限られた時間の中で、学生の皆さんに和やかに過ごしていただくために、特製弁当や手作りスイーツなども検討していきたいと考えています。

Q3

最後に四日市看護医療大学の学生に“ひとこと”お願いいたします。

沢山のご利用、従業員一同お待ちしております。

